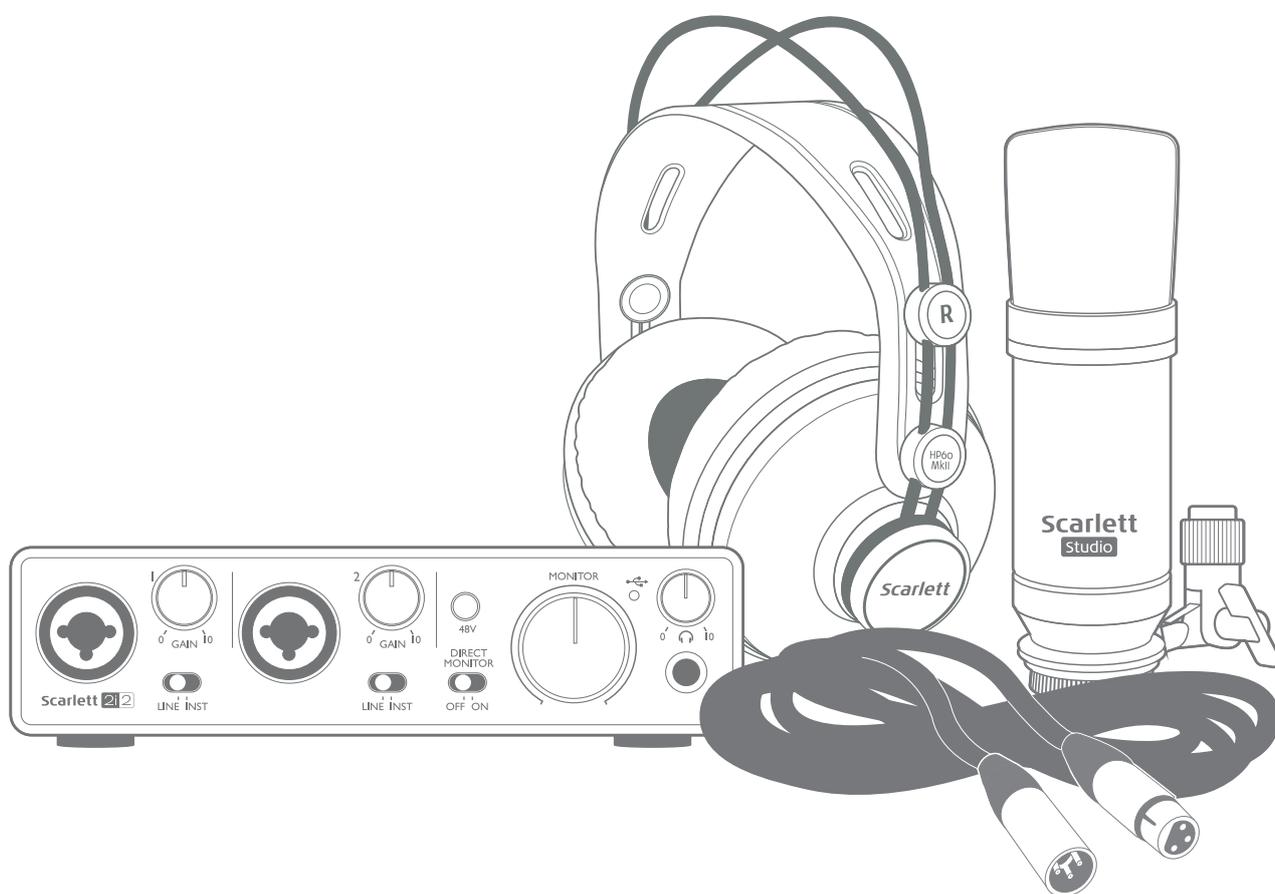


Scarlett **2i2** Studio

ユーザーガイド



Focusrite®
www.focusrite.com

目次

概要	3
はじめに	3
特徴	3
同梱物	4
システム要件	4
Mac OS	4
Windows	4
さあ、始めましょう	5
ソフトウェアのインストール	5
Mac OS	6
Windows	6
Scarlett 2i2 を接続する	7
DAW でのオーディオ・セットアップ	7
使用例	9
マイクや楽器の接続	9
マイクを使用したレコーディング	10
ダイレクトモニタリング	12
ヘッドフォンを Scarlett 2i2 に接続する	12
Scarlett 2i2 をスピーカーに接続する	13
各部の名称と特徴	14
フロントパネル	14
リアパネル	15
仕様	16
性能仕様	16
物理的特性と電気的特性	17
Scarlett Studio CM25 MkII マイクロフォン仕様	18
Scarlett HP60 MkII ヘッドフォン仕様	18
トラブルシューティング	19
著作権表示と法定通知	19

概要

はじめに

第2世代の Scarlett 2i2 Studio をご購入いただきありがとうございます。本製品は、Focusrite プロフェッショナルオーディオインターフェースシリーズの1つで、高品質 Focusrite アナログプリアンプが搭載されています。高品質のオーディオをお使いのコンピュータとルーティングすることで、マイクの使用や楽器のレコーディングを行う上でのシンプルかつコンパクトなソリューションとなります。

Scarlett インターフェイスの第二世代シリーズの開発に際しては、パフォーマンスと機能セットの両方が強化されました。最大 192kHz のサンプルレートに対応するほか、低ノイズ化やゲインの大幅な増加など様々な改善によりマイクプリアンプの性能が向上しました。ヘッドルームが追加されてインストゥルメント入力がアップグレードし、大きなレベルのギターのパートもクリッピングせずに録音することができます。Mac とはクラスコンプライアントなので、接続すればすぐにお使い頂けます。そのため、Mac ユーザーの方はドライバーをインストールする必要がありません。また、購入された製品を登録すると、エキサイティングな新しいソフトウェアプラグインをダウンロードすることも可能です。

このユーザーガイドでは、Scarlett 2i2 の操作上の特徴を十分に理解していただくために本製品の詳細を説明しています。Scarlett Studio の構成と付属ソフトウェアが持つすべての可能性を十分に理解するために、レコーディングが初めてのユーザーの方、既に経験のある豊富なユーザーの方に関わらず、全ての方に本ユーザーガイドを最後まで読み通して頂くことを推奨しています。メインのユーザーガイドのセクションに必要な情報が記載されていない場合は、<https://support.focusrite.com/> を参照してください。本サイトには、テクニカルサポートに寄せられる一般的な質問の回答集が掲載されています。

特徴

Scarlett Studio は、Scarlett 2i2 オーディオインターフェース、スタジオクオリティーを実現する Scarlett Studio CM25 MKII コンデンサーマイクロフォン、Scarlett Studio HP60 MKII モニタリングヘッドフォン、さらに高品質オーディオをクイックな方法でコンピュータにレコーディングし始めるために必要なすべてのソフトウェアによって構成されています。

Scarlett 2i2 インタフェースは、Scarlett 2i2 Studio を構成する主要なユニットです。本製品を使用して、CM25 MkII (または他の) マイクロフォン、楽器またはラインレベルのオーディオ信号を Mac OS または Windows コンピュータに送信することができます。2i2 の入力部に接続された信号は、USB接続を使用してレコーディングソフトウェアにルーティングされます。同様に、レコーディングソフトウェアのモニター出力もしくはレコーディングされた出力は、2i2 より再現されます。(注意:オーディオレコーディングソフトウェアは「デジタルオーディオワークステーション」または「DAW」と呼ばれ、このユーザーガイド全体を通して「DAW」と称します)。

2i2 の入力部に接続されたマイクや楽器などの音源を DAW 上でレコーディングすることができ、DAW から出力部にルーティングが行えます。2i2 の様々な出力は、HP60 MkII ヘッドホンや、お使いのアンプやスピーカー、パワードモニター、アナログミキサーまたはその他のアナログオーディオ機器に接続することができます。Scarlett 2i2 上のすべての入出力は、レコーディングや再生の際直接 DAW との間でルーティングされますが、ユーザーのニーズに合わせて DAW 内部でルーティングを構成することも可能です。

同梱物

Scarlett 2i2 Studio パッケージには次の製品が付属されています。

- Scarlett 2i2(第2世代)オーディオインターフェース
- Scarlett Studio CM25 MkII コンデンサーマイクロフォンとマイクホルダー
- Scarlett Studio HP60 MkII ヘッドフォン
- 以下のオンラインリソースにアクセスするためのバンドルコード*:
 - Windows用 2i2 USB ドライバー
 - Focusrite Red 2 & 3 プラグインスイート
 - Softube Time and Tone バンドル
 - Pro Tools | First
 - Ableton Live Lite
 - LoopMasters サンプルライブラリ
 - Novation Bass station
 - 多言語対応ユーザーガイド
- XLR マイクケーブル(赤色、3m)
- USB ケーブル
- Getting Started Guide(英語)および重要な安全情報*

* ギフトボックス内側に記載された情報

システム要件

Mac OS

USB 2.0 または 3.0 対応の USB ポートが搭載された Apple Macintosh とインターネット接続*

OS : Mac OS X 10.10 (Yosemite) または OS X 10.11 (El Capitan)

Windows

USB 2.0 または 3.0 対応のUSBポートを搭載した Windows とインターネット接続*

OS : Windows 7 (32 または 64 ビット)、8.1 および 10

* オンラインリソースのダウンロードには、インターネット接続が必要です。

さあ、始めましょう

重要: Windows ユーザー - お使いのコンピュータに Scarlett 2i2 を接続する前にインストーラを実行するようにしてください。

第 2 世代 Scarlett 2i2 は Mac の標準ドライバ (クラスコンプライアント) で動作します。そのため、ドライバのインストールは不要です。

ソフトウェアのインストール

Scarlett 2i2 に必要なすべてのソフトウェアおよび複数の強力かつ便利な追加ツールは、Focusrite ウェブサイト www.focusrite.com/register からダウンロードできます。「バンドルコード」はお使いの Scarlett 2i2 に付属のギフトボックス内に記載されています。また、シリアル番号は本製品の側面に記載されています。これらの情報は、ウェブサイトのダウンロードリソースにアクセスする際に必要となります。本手順に従うことで、最新バージョンのソフトウェアを入手することが可能です。

DOWNLOADING THE INCLUDED SOFTWARE

To download the included software, you will need to register your Scarlett 2i2 at focusrite.com/register and enter BUNDLE CODE below when prompted.

PRODUCT BUNDLE CODE

XXXXXX-XXXXXX-XXXXXX

For an in depth video tutorial, please go to focusrite.com/get-started

1. お使いのブラウザで、www.focusrite.com/register/ にアクセスします。
2. 画面上の指示に従ってシリアル番号を入力し、次に、バンドルコード (XXXXXX-XXXXXX-XXXXXX) を入力します。バンドルコードはギフトボックス内側に印刷されています。
3. すると「My Product」ページにアクセスできるようになるので、こちらで登録した製品のソフトウェア製品をダウンロードが可能です。また製品には、必要に応じてアクティベーションコードが含まれています。
4. Scarlett 2i2 ドライバをダウンロードしてインストールします (Windows のみ)。画面上のすべての指示に従います。
 - インストールが完了したら、コンピュータを再起動します。
 - 再起動後、付属の USB ケーブルで Scarlett 2i2 をお使いのコンピュータに接続します。

本ガイドには、2016 年 5 月時点での正確な情報が記載されています。ただし、弊社はカスタマーサービスの向上に常に取り組んでいるため、この手順は変更されることがあります。内容に変更があると思われる場合は、www.focusrite.com/get-started で最新の情報をご確認ください。

Mac OS:

お使いの OS は、コンピュータのオーディオのデフォルト入出力を自動的に Scarlett 2i2 に切り替えます。これを確認するには、**【システム環境設定】** → **【サウンド】**に移動し、入出力が**【Scarlett 2i2】**に設定されていることを確認します。Mac のセットアップオプション詳細については、**【アプリケーション】** → **【ユーティリティ】** → **【AUDIO MIDI設定】**の順に表示させて、参照してください。

Windows:

お使いの OS は、コンピュータのオーディオのデフォルト入出力を自動的に Scarlett 2i2 に切り替えます。これを確認するには、**【スタート】** → **【コントロールパネル】** → **【ハードウェアとサウンド】** → **【サウンド】** → **【オーディオデバイスの管理】**に移動して、**【再生】** および **【録音】** が **【Scarlett 2i2】** に設定されていることを確認します。

Scarlett 2i2 を接続する

重要 - Windows ユーザー : Scarlett 2i2 をお使いのコンピュータに接続する前に、ページ 5 に記載されている指示に従ってソフトウェアのインストールを完了してください。これにより、ハードウェアが正しいドライバを使用し、予期せぬ動作を防止することができます。

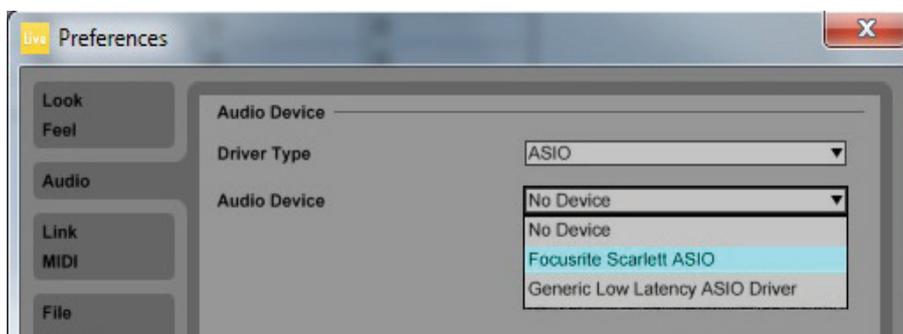
Scarlett 2i2 には USB 2.0 ポートが（リアパネル上に）備わっています。ソフトウェアのインストール（必要な場合）が完了したら、付属の USB ケーブルでお使いのコンピュータに Scarlett 2i2 を接続するだけです。Scarlett 2i2 は USB 2.0 デバイスに対応しています。USB を接続するには、USB 2.0 以上のポートがコンピュータになければなりませんのでご注意ください。USB 1.0/1.1 ポートでは正しく動作しません。

DAW でのオーディオセットアップ

Scarlett 2i2 は、ASIO または WDM 対応のすべての Windows ベースの DAW および Core Audio を使用するすべての Mac ベースの DAW と互換性があります。ドライバのインストール（Windows のみ）が完了し、ハードウェアを接続したら、好きな DAW で Scarlett 2i2 を使用し始めることができます。DAW アプリケーションがお使いのコンピュータにインストールされていない場合でも本製品を使用できるように、Pro Tools および First and Ableton Live Lite が付属しています。これらのソフトウェアは、オンラインでダウンロードしてアクティベーションすることで、利用できるようになります。いずれかの DAW をインストールするには、ページ 5 に説明されるように登録済みの Focusrite の「My Product」から適切なインストーラファイルをダウンロードして保存し、画面上の指示に従って実行します。

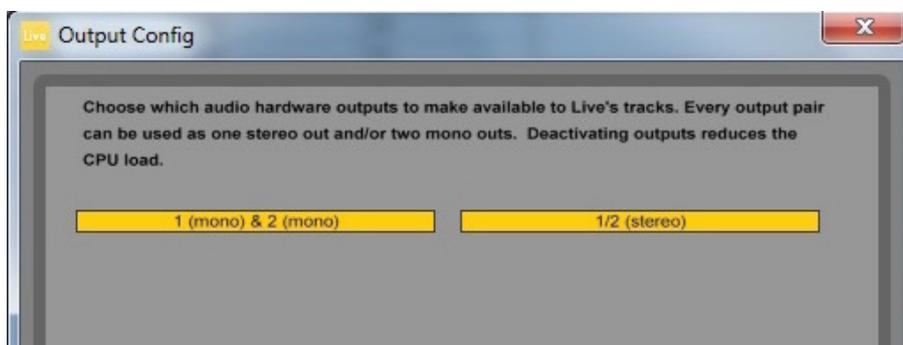
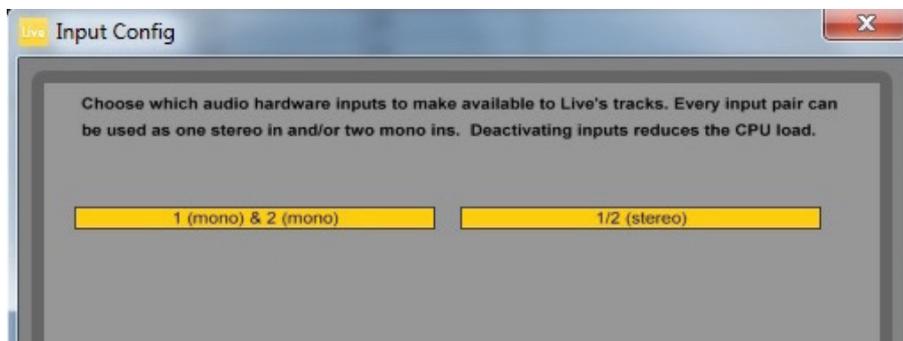
Pro Tools | First および Ableton Live Lite の操作説明は、本ユーザーガイドには記載されていませんが、それぞれのアプリケーションには、完全なヘルプファイル一式が含まれています。また、その他のリソース（Ableton Live Lite を開始するためのビデオチュートリアルを含む）はwww.focusrite.com/getting-startedからアクセスできます。

注意：デフォルトの I/O デバイスとして Scarlett 2i2 を自動的に選択しない場合があります。その場合、お使いの DAW の**オーディオ環境設定***ページでドライバーとして「**Scarlett 2i2**」を手動で選択する必要があります。ASIO または Core Audio ドライバを選択する場所がわからない場合は、お使いの DAW のドキュメンテーション（またはヘルプファイル）を参照してください。以下の例では、Ableton Live Lite の【**環境設定**】パネル（Windows バージョンの場合）が表示されています。



*一般的な名称。この用語は、DAW によって若干異なることがあります。

Scarlett 2i2 がお使いの DAW でのオーディオデバイス*として設定されると、Input 1 と 2 および Output 1 と 2 が DAW のオーディオ I/O 環境設定に表示されます。お使いの DAW によっては、使用する前に特定の入力または出力を有効にする必要があります。以下の 2 つの例では、Input 1 と 2 および Output 1 と 2 が Ableton Live のオーディオ環境設定で有効になっていることを示しています。

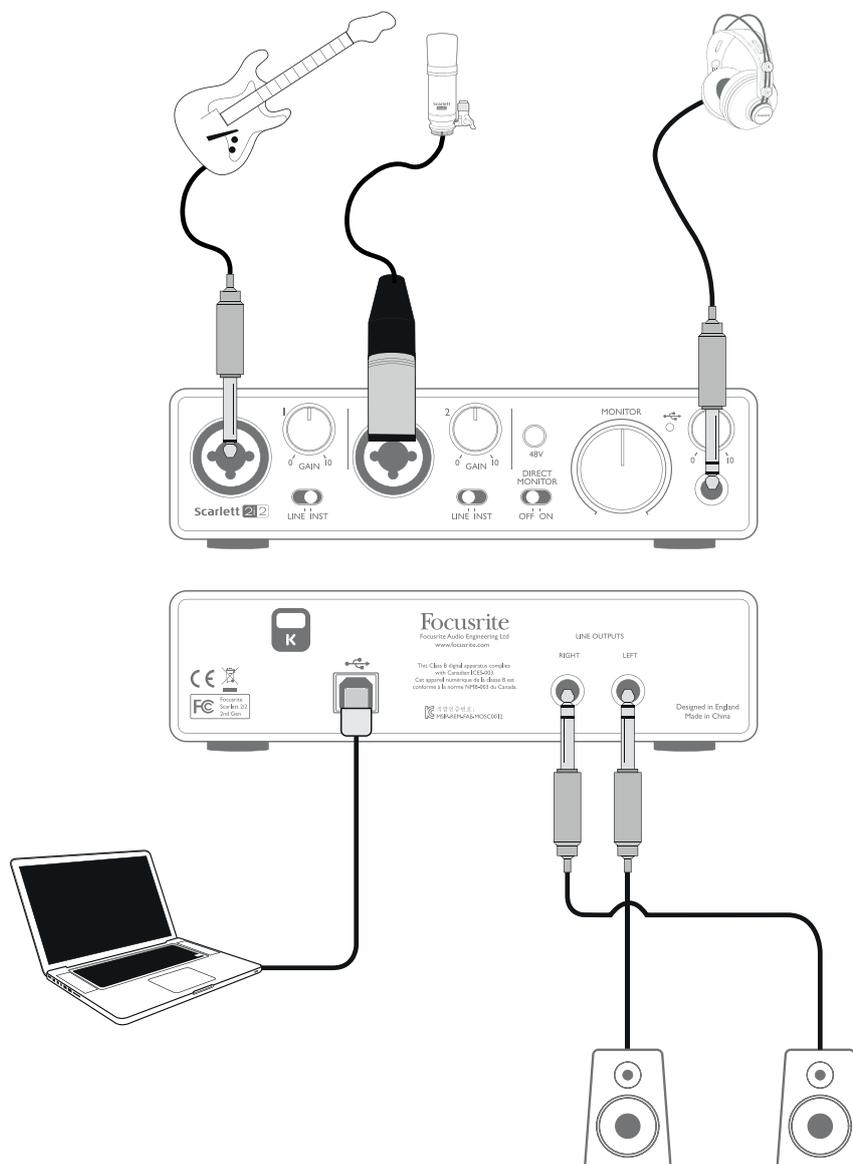


*一般的な名称。この用語は、DAW によって若干異なることがあります。

使用例

Scarlett 2i2 では、様々なレコーディングやモニタリングを行えます。一般的な構成例をいくつか以下に示します。

マイクや楽器の接続



このセットアップでは、Mac または Windows 上の DAW ソフトウェアでレコーディングを行う際の最も一般的な構成を示しています。この場合、ヘッドフォン（またはスピーカー）でモニタリングしながら、Input 1 からギターを、Input 2 からはボーカルを DAW にレコーディングすることが可能です。

フロントパネルの入力ソケットは「コンボ」タイプのもので、これは XLR オスコネクタ（多くの場合マイクロフォンケーブルの一端に備わっているものと同じもの）または 1/4 インチ（6.35mm）ジャックプラグのいずれかに対応します。コンデンサマイクを使用している場合は、48V ファンタム電源をオンにする必要があります。ファンタム電源は、その他のタイプのマイクロフォン（例：ダイナミックマイクまたはリボンマイク）を使用している際にはオンにしないでください。

Scarlett 2i2 には「マイク/ライン」-スイッチが備わっていませんのでご注意ください。Focusrite のプリアンプ部分では、XLR を接続すると自動的にマイク用に、ジャックプラグを接続すると自動的にラインまたは楽器用に設定されます。通常の 2 極（TS）ギタージャックで楽器（ギターなど）を接続している場合、ソケットの隣にある **LINE/INST** スイッチを **INST** に設定します。また、3 極（TRS）ジャックでキーボード、シンセサイザーまたは外部オーディオミキサーのバランス出力などのラインレベルのソースを接続している場合は **LINE** に設定します。コンボコネクタは TRS と TS の両タイプのジャックプラグに対応しています。

マイクを使用したレコーディング

Scarlett Studio に付属されている Scarlett Studio CM25 MkII マイクロフォンは、ボーカルやほとんどのアコースティックな楽器をレコーディングする際に理想的な、スタジオクオリティのコンデンサーマイクです。付属のケーブルを使用して、CM25 MkII を Scarlett 2i2 のフロントパネルに備わった 2 つの入力部のうちの 1 つに接続します。注意：ケーブルにはオスとメスのコネクタが搭載されています。メスコネクタ側はマイクに接続され、オスコネクタ側は Scarlett 2i2 に接続されます。

コンデンサーマイク（「キャパシタ」マイクロフォンと呼ばれることもあります）を使用する際には、DC 電源が必要です。ほとんどの場合、マイクが接続されているマイクプリアンプからのファンタム電源（初期のモデルのものや特定の用途のためのコンデンサーマイクには別途の電源が付属されている場合があります）を供給して使用します。CM25 MkII（またはその他のコンデンサーマイク）を Scarlett 2i2 で使用する際は、フロント・パネルの **48V** ボタンを押します（フロントパネルのページ 14 を参照）。その際には、次の手順に従うことを推奨します。

- 入力ゲイン[2]を最小にします
- マイクを接続します
- **48 V** ボタンを押します
- 入力ゲインを必要なレベルまで上げます



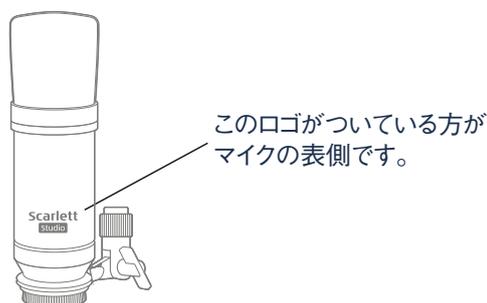
Scarlett 2i2 のファンタム電源を有効にすると、両方の XLR 入力部に 48V 電源が供給されます。1 つのマイクのみを使用している場合、XLR コネクタを使用して他の機器のバランス出力などいかなるものも、もう一方の入力に接続しないでください。他の機器の出力回路に 48V を供給すると、回復不能な損傷を起こす可能性があります。もう一方の入力端子は、TRS ジャックプラグを使用しても問題ありません。

マイクの使用に関するルール

このユーザーガイドでは、マイクの取り扱い方やテクニックに関して詳しく記載されていませんが（詳しい内容は書籍などでご確認ください）、スタジオクオリティーのマイクを使用したレコーディングが初めての方のために、いくつかの守るべきルールを紹介いたします。

- ・必ずマイクスタンドを使用してください。CM25 MkII には、業界標準の 5/8 インチネジが備わっており、ほとんどのマイクスタンドに取り付けることが可能です。3/8 インチのマイクスタンドに取り付ける際のために使用するための変換ネジも付属されています。ショート/ロングブームスタンドは、楽器店等で入手可能です。

- ・必ずマイクの向きを確認してください。CM25 MkII はカージオイドパターンの指向性となっているため、正面の音だけを強く拾うタイプとなっています。ですので、間違った向きで使用すると正確にレコーディングが行えません。CM25 MkII の前面は、CM25 MkII のロゴで識別できるようになっています。



- ・必ず適切なレコーディング環境を形成してください。レコーディング環境をしっかりと形成しない限り、レコーディングスタジオのような完璧なサウンドを録音することができません。特に、部屋が持つ反響については注意してください。反響が必ずしも悪影響を及ぼすとは限りませんが、大抵の場合レコーディングに障害を与えるものとなります。一般的にレコーディング環境は「ライブ」なもの（音の反射が多い状態）より「デッド」な状態（音の反射が少ない状態）の方が好ましいと言われています。反響のある空間でレコーディングされる方がメリットを得られるような楽器もありますが、レコーディングプロセスで後からリバーブを追加することができる一方、レコーディング時に部屋で発生していたリバーブを後から取り除くことはできません。

- ・テストの際にマイクに息吹きかけないでください。代わりに網目部分を軽くこすってみてください。

- ・マイクの位置を色々試してみてください。ボーカルや楽器をレコーディングする際には、音源自体だけでなく、音源からのマイクの位置が影響することを覚えておいてください。また、レコーディングを行なっている部屋の環境によっても異なります。マイクを動かして、録音する対象から異なる距離や角度でレコーディングを試してみると、多様なサウンドが得られ、音質に差が出る場合があります。

- ・アンプによって得られる効果を録音したい場合には、ギターアンプに CM25 MkII を向けて使用してください。しかし、非常に高い音量が生成されてしまう場合があるのでご注意ください。大きな音量を得たい場合には、マイクをアンプから離すことでより良いサウンドを得られることができます。また、マイクをラウドスピーカーのコーン中央に向けた場合と縁に向けた場合とでは、サウンドが微妙に異なることにも注意してください。

- ・マイクは、あらゆる音を拾ってしまうことを忘れないでください。録音しようとしているものだけでなく、時計やエアコン、ヒーター、椅子が軋む音など室内のあらゆる音源をも拾ってしまいます。レコーディング時には余計な音に気付かなくても、マイクはしっかりと捉えており、後から録音を再生した際に気づく、というようなことが多々あります。不要な低域のノイズを取り除きたい場合には、DAW 上でマイクチャンネルにハイパスフィルター（HPF）を適用することを推奨します。

ダイレクトモニタリング

デジタルオーディオに関する話の中で「レイテンシー」という用語を聞くことがよくあります。上記のような DAW レコーディングアプリケーションの場合、レイテンシーは、入力信号がコンピュータおよびオーディオソフトウェアを通過するのにかかる時間を意味します。レイテンシーは、モニタリングしながらレコーディングを行いたい場合に障害となることがあります。

Scarlett 2i2 には、この問題を解決するダイレクトモニタリング機能が備わっています。

フロントパネルで **DIRECT MONITOR** スイッチをオンに設定すると、入力信号が Scarlett Solo のヘッドフォンおよびメインモニター出力に直接ルーティングされます。これにより、コンピュータで再生される音と共に、ゼロレイテンシーで（つまりリアルタイムに）ご自身の音声を聞くことができます。お使いのコンピュータへの入力信号に影響が生じることはありません。

DIRECT MONITOR をオンに設定する際は、お使いの Ableton Live Lite (もしくは他の DAW) がその入力 (現在レコーディング中のもの) を出力ヘルーティングしないように設定されていることを確認してください。そのように設定されている場合、一つの信号がエコーのように遅れて聞こえるので、音声は「2 回」聞こえてしまいます。

ヘッドフォンを Scarlett 2i2 に接続する

Scarlett 2i2 Studio パッケージには、高品質ヘッドフォン Scarlett Studio HP60 MkII が含まれています。軽量で耐久性があり、長時間快適に使用することができます。ヘッドバンドは調整可能です。

HP60 MkII には、1/4 インチ (6.35mm) の 3 極 (TRS) ジャックプラグが備わった低ノイズの OFC (無酸素銅) ケーブルが搭載されておりこちらを Scarlett 2i2 のフロントパネルの右下部のヘッドフォン出力に接続します (🎧 マークで示されています)。もちろん、Scarlett 2i2 のヘッドフォン出力は他のモデルのヘッドフォンにも使用が可能です。

ヘッドフォンの音量は、ソケットのすぐ上に備わっているロータリーコントロールで調節することができます。

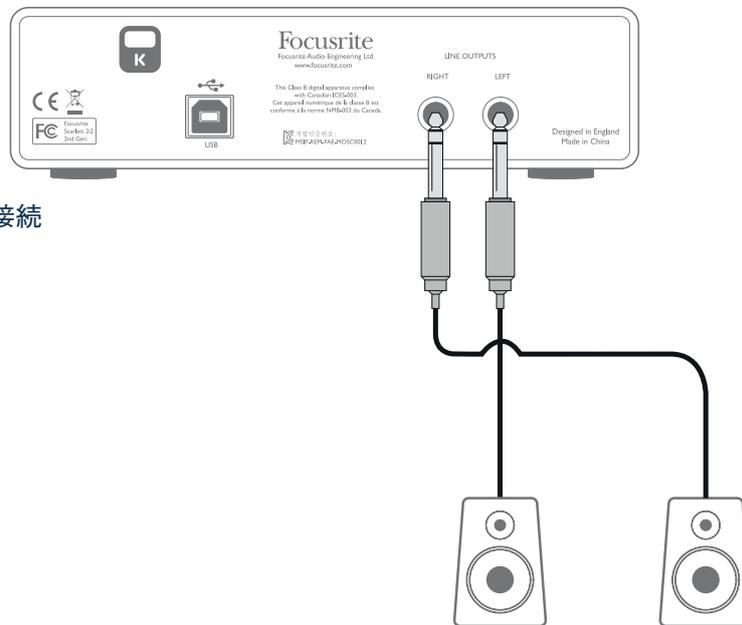


ヘッドフォンは耳に非常に高い音圧レベルを生成することができます。高音量に長期間さらされると、聴覚が損なわれる可能性があります。必要以上にヘッドフォンの音量を上げないでください。

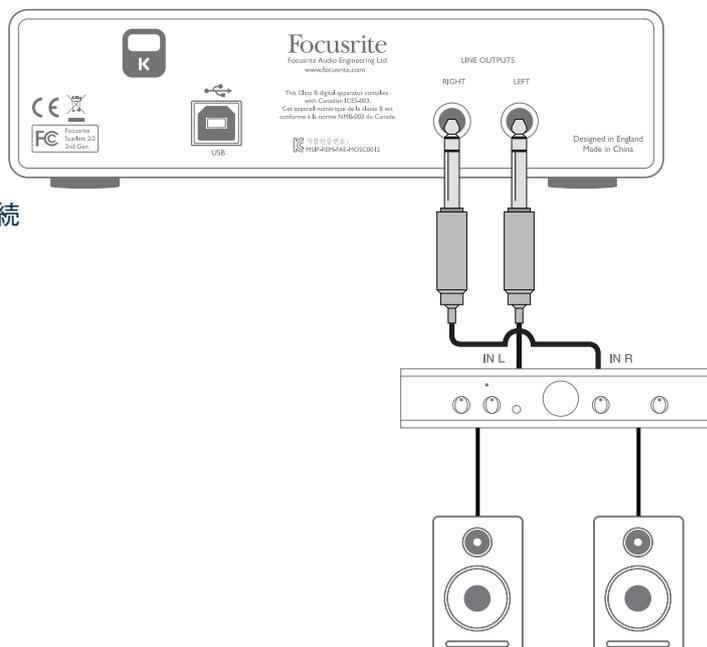
Scarlett 2i2 をスピーカーに接続する

リアパネルの1/4インチジャック出力では、モニタリングスピーカーを接続することができます。アンプ内蔵型のモニタースピーカー（一般的なコンピュータスピーカーなど）は、内部アンプが組み込まれているため、直接接続することが可能です。大型のバスブラウドスピーカーには、別途ステレオアンプが必要です。この場合、リアパネル出力部はアンプの入力部に接続する必要があります。

アクティブスピーカーの接続



パッシブスピーカーの接続

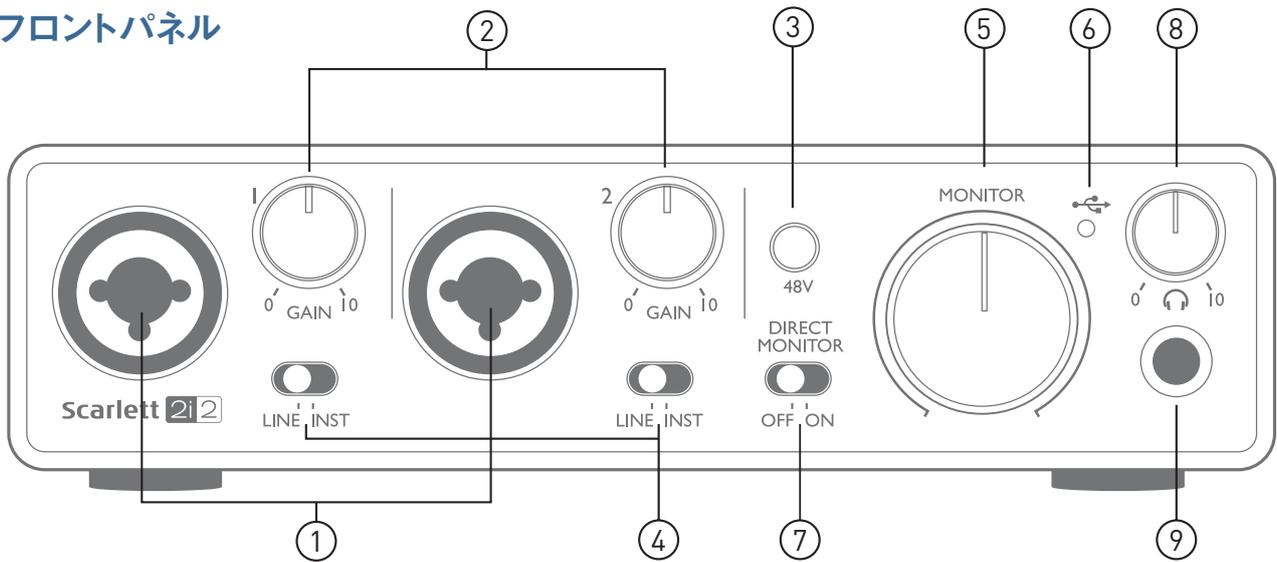


ライン出力コネクタは3極 (TRS) 1/4インチ (6.35mm) ジャックソケットであり、バランス出力です。一般的な家庭用 (Hi-Fi) アンプと小型パワーモニターには、フォノ (RCA) ソケットまたはコンピュータに直接接続するための 3.5mm 3 極ジャックプラグ経由のいずれかにアンバランス入力があります。いずれの場合も、一端にジャックプラグの付いた適切な接続ケーブルを使用します。

プロフェッショナル用パワーアンプは一般的にバランス入力を備えています。

各部の名称と特徴

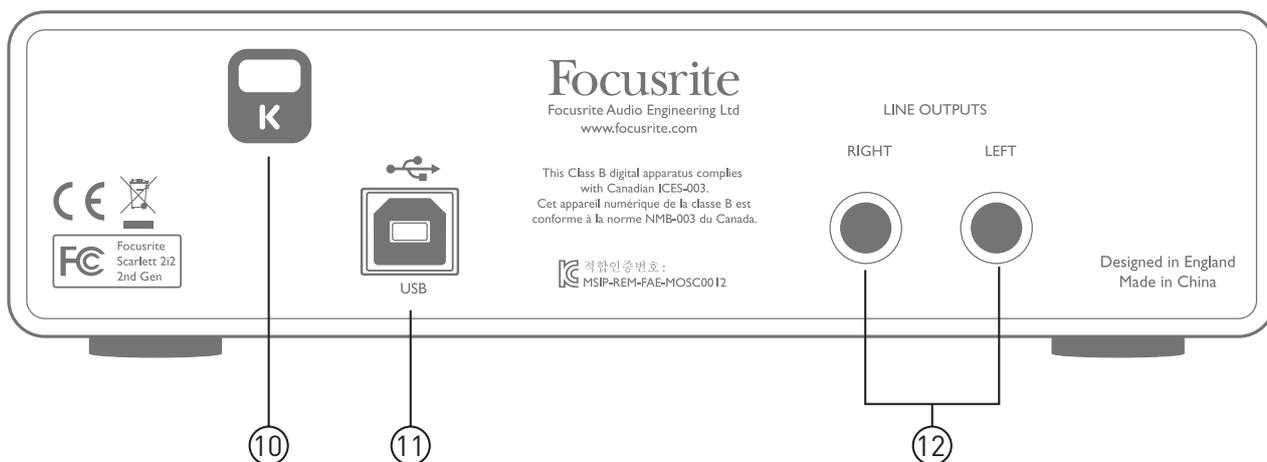
フロントパネル



フロントパネルには、マイク、ラインおよびインストゥルメント信号、入力ゲイン、モニタリングコントロールが備わっています。

1. Input 1 と 2 - 「コンボ」タイプ入力ソケット - 必要に応じて XLR または 1/4 インチ (4.35mm) ジャックでマイク、インストゥルメント (ギターなど) またはラインレベル信号を接続します。
2. **Gain 1** および **Gain 2** - Input 1 と 2 のそれぞれの信号の入力ゲインを調整します。ゲインコントロールには、信号レベルを確認するための同心円状の 2 色の LED 「リング」が備わっています。緑色は、最低 -24dBFS の入力レベル (「信号あり」) を示します。信号レベルが 0dBFS に達すると、リングが赤に変わり、デジタルクリッピングを示します。
3. **48V** - マイク入力用のファンタム電源スイッチ - 両方のコンボコネクタの XLR 端子で 48V のファンタム電源を有効にできます。Scarlett 2i2 Studio パッケージに付属の CM25 MkII マイクロフォンの使用には、ファンタム電源が必要です。
4. **LINE/INST** - 各入力用ライン/インストゥルメントレベルスイッチ - インストゥルメントまたはラインレベルの信号に適したゲインと入力インピーダンスに切り替えます。
5. **MONITOR** - メインモニター出力レベルコントロール - メイン (リアパネル) 出力 1 と 2 での出力レベルを設定します。
6.  USB LED - 本体に USB バスパワーが供給され、コンピュータ上で認識されると点灯します。
7. **DIRECT MONITOR** - ライブレコーディングのモニタリングを DAW から行うか、直接行うか (ゼロレイテンシー) 選択することができます。
8.  ヘッドフォンのレベル - フロントパネルのステレオヘッドフォン出力のレベルを調節します。
9.  ヘッドフォンソケット - 1/4 インチ TRS 出力ジャック - お使いのステレオヘッドフォンを接続します。

リアパネル



10. **K** (ケンジントンセキュリティロック) - 希望に応じて、お使いの Scarlett 2i2 に適切なセキュリティ対策を行います。この機能の使用方法に関する詳細な情報は、www.kensington.com/kensington/us/us/s/1704/kensington-security-slot.aspxをご覧ください。
11.  **USB 2.0** ポート - タイプ B コネクタ。付属のケーブルでお使いのコンピュータに接続します。
12. **LINE OUTPUTS: LEFT** および **RIGHT** - 1/4インチ (6.35mm) TRS ジャックソケット x 2。+10dBu 出力レベル(可変) バランス出力。1/4インチ TRS (バランス接続) または (アンバランス接続) ジャックプラグが使用できます。

仕様

性能仕様

クロックソース	内部
対応サンプルレート	44.1kHz、48kHz、88.2kHz、96kHz、176.4kHz、192kHz
マイク入力	
ダイナミックレンジ	106dB (A特性)
周波数特性	20Hz ~ 20kHz± 0.1dB
THD+N	<0.002% (最小ゲイン、-1dBFS 入力、 22Hz/22kHz バンドパスフィルタ)
ノイズ EIN	-128dB (A特性)
最大入力レベル	+4dBu
ゲインレンジ	50dB
ライン入力	
ダイナミックレンジ	106dB (A特性)
周波数特性	20Hz ~ 20kHz、± 0.1dB
THD+N	<0.003% (最小ゲイン、-1dBFS入力、 22Hz/22kHz バンドパスフィルタ)
最大入力レベル	+22dBu
ゲインレンジ	50dB
楽器入力	
ダイナミックレンジ	106dB (A特性)
周波数特性	20Hz ~ 20kHz、± 0.1dB
THD+N	<0.02% (最小ゲイン、-1dBFS入力、 22Hz/22kHz バンドパスフィルタ)
最大入力レベル	+13dBu
ゲインレンジ	50dB
ライン出力 1 と 2 (バランス)	
ダイナミックレンジ	106dB (A特性)
最大出力レベル	+10dBu
THD+N出力 (1 ~ 2)	<0.002% (最小ゲイン、-1dBFS入力 1kHz、 22Hz/22kHz バンドパスフィルタ)

ヘッドフォン出力	
ダイナミックレンジ	107dB (A特性)
最大出力レベル	>+10dBu
THD+N	<0.002% (最小ゲイン、-1dBFS入力、1kHz、22Hz/22kHz バンドパスフィルタ)

物理的特性と電気的特性

アナログ入力	
コネクタ	XLR 「コンボ」 タイプ : フロントパネルの Mic/Line/Inst (Input1 ~ 2)
マイク/ライン切替	自動
ライン/楽器切替	フロントパネルのスイッチ x 2
ファンタム電源	入力 1 と 2 に使用する共有 48V ファンタム電源スイッチ (XLR 接続のみ)
アナログ出力	
バランス出力	リアパネルの¼インチ TRS コネクタ x2
ステレオヘッドフォン出力	フロントパネルの¼インチ TRS ジャック
メイン出力レベルコントロール	フロントパネル上
ヘッドフォンレベルコントロール	
その他の入出力	
USB	USB 2.0 タイプ B コネクタ x 1
フロントパネルのインジケータ	
USB 電源	LED
ゲイン Halo	色が変わる LED リング (GAIN コントロールと同心)
ファンタム電源	LED (48V ボタン)
重量および寸法	
幅 x 高さ x 奥行	145mm x 45mm x 115mm 14.5cm x 4.5cm x 11.5cm (5.7 インチ x 1.77 インチ x 4.53 インチ)
重量	0.60kg 1.32 ポンド

Scarlett Studio CM25 MkII マイクロフォン仕様

カプセル	
タイプ	直径 20mmコンデンサーエレメント
指向特性	カーディオイド
取付	標準的な 5/8 インチメス型、3/8 インチ変換ネジ付属
性能	
周波数特性	30Hz～ 20kHz
感度	-36dB ± 2dB(0dB=1V/Pa)
セルフノイズ	18dBA
最大 SPL	130dB (1kHz)
SN比	76dB (A特性)
インピーダンス	150 オーム
電源	48V ファンタム電源経由

Scarlett HP60 MkII ヘッドフォン仕様

タイプ	密閉型
ドライバー直径	53mm
インピーダンス	60 オーム
感度 SPL	94dB ± 3dB
周波数特性	10Hz～ 30kHz
最大定格電力	1.2W
ケーブル長	(約) 3m
コネクタ	直径 3.5 / 6.35mm (アダプター経由)
重量	280g (ケーブルを含む)

トラブルシューティング

トラブルシューティングに関する質問がある場合は、次のFocusrite Answerbaseのウェブサイトへアクセスしてください。
<https://support.focusrite.com/>に多くのトラブルシューティング例が掲載されています。

著作権表示と法定通知

Focusrite は登録商標であり、Scarlett 2i2 および Scarlett 2i2 Studio は Focusrite Audio Engineering Limited の商標です。

その他すべての商標および商品名は各所有者の財産です。

2016 © Focusrite Audio Engineering Limited. All rights reserved.